

若手研究者の能力開発プログラム —事例紹介と今後の課題—

8月29日（火） 13:30-15:00 会場C（5階）

国際的に研究力が高い大学は、次代の研究を牽引する先導的研究者を自前で育成・輩出している。国内では、若手研究者を育成するトップダウンの取組みとして、テニユアトラック・卓越研究員制度の導入、研究ファンドの若手枠増加など「ハードウェア的側面」の充実が図られてきた。一方、若手研究者そのものの能力を開発する「ソフトウェア的側面」については、研究現場に委ねられているのが現状である。本セッションでは、URAの専門性や立場を活かして、助教・准教授クラスの若手研究者の能力向上を図る取組みについてオープンに紹介し、大学間で情報共有する機会を提供する。事例にもとづくノウハウの紹介は、他大学で同様の取組みを行うにあたって大きな助けになると期待される。

京都大学からは「外部資金申請書・論文等に用いられるグラフィックデザイン支援」、神戸大学からは「論文査読者として必要な英文スキルを学ぶセミナー」や「研究室運営を行うPIに有用な研究マネジメントスキルを学ぶセミナー」等の実施例について紹介する。また私立大学での取組みとして、同志社大学からは「自大学出身の若手研究者を養成する同志社大学特別任用助教・特別任用助手の制度」や「採用された若手研究者に対する科研費申請書作成支援」について紹介する。これらの取組み事例を通じて明らかになった問題点や改善点も併せて紹介し、今後の課題について検討する。

オーガナイザー



小川 正：京都大学 次世代研究創成ユニット
プログラムマネージャー／特任教授（シニアURA兼務）

大阪大学基礎工学部卒、自然科学研究機構生理学研究所 助手、京都大学大学院医学研究科 講師、准教授を経て、2015年より現職。文部科学省 科学技術人材育成コンソーシアムの構築事業で設立された次世代研究者育成コンソーシアム（K-CONNEX）のプログラム実施責任者、若手研究者を対象とした育成・支援プログラムを構築している。博士（工学）

講演者



村田 卓也：神戸大学 学術・産業イノベーション創造本部
学術研究推進部門 特命准教授（URA）

京都大学理学研究科修了、熊本大学発生医学研究センター助手、理化学研究所CDB研究員、GSC 研究員、BRC開発研究員を経て、2015年より現職。京阪神次世代研究者育成コンソーシアム（K-CONNEX）の神戸大学担当。神戸大学K-CONNEXおよび神戸大学テニュアトラックを主な対象として若手育成・支援プログラムを構築している。博士（理学）。



小野 英理：京都大学 次世代研究創成ユニット URA

東京大学大学院理学研究科修了、2015年より現職。霊長類研究の傍ら、ウェブサイトやロゴ等のデザイン制作を経験。現在は、競争的資金申請書において研究構想を分かりやすく示す絵図や、研究活動に関連するデザイン制作について支援体制を構築している。博士（理学）。



廣瀬 まゆみ：同志社大学 研究開発推進機構 URA

大阪大学大学院医学研究科博士課程終了、大阪バイオサイエンス研究所、阪大蛋白質研究所、金沢大学がん進展制御研究所など研究員を経て、2014年に現職に至る。現在は、外部資金の獲得や若手育成など支援している。